

藤枝市史だより

第16号

平成19年3月31日発行
編集・発行 藤枝市郷土博物館
市史編さん係
〒426-0014
藤枝市若王子500 蓮華寺池公園内
TEL 054(645)1100

E-mail
fujieda-muse@ny.tokai.or.jp

古墳時代の葉梨



▲ 掘建柱建物跡

葉梨の周辺では、第二東名建設に伴い、近年、相次いで遺跡が発見・調査され、大きな成果が上がっています。特に注目できるのは、中ノ合に所在する寺家前遺跡、衣原古墳群、衣原古窯の三遺跡です。これらの遺跡では、古墳時代後期の遺構・遺物が見つかります。特徴的なのは、同時代の遺跡が半径五〇メートル以内の狭い範囲に存在し、それぞれの内容が異なる点にあります。次に、各遺跡の概要を記します。

寺家前遺跡では、古墳時代後期の集落跡と水田跡を調査しました。遺構としては、二〇棟を越える掘建柱建物跡と、一〇棟前後の竪穴住居跡、区画溝、水田跡を確認しています。着目したいのは、溝によつて区画された集落の中心部に一辺が一〇メートルある掘建柱建物跡が存在する点です。建物の規模は、当該期の一般的な規模よりも大きく、この集落にはかなりの有力者が居たことが想起させられます。遺物は、土器や木器が大量に出土し、これらの遺物から集落の存続期間は六世紀末から七世紀前半の約五〇年間と考えられます。なお、志太地域一帯では、この時期の集落跡はほとんど見つかっていません。寺家前遺跡の発見・調査は、藤枝市において古墳時代後期の大規模な集落の実態を初めて解明した点でも特筆に値します。

衣原古墳群は古くから存在が知られていた古墳時代後期の古墳群ですが、今回の調査により新たな古墳を一基発見しました。衣原十一号墳と名付けられたこの古墳は上半部を壊されていたものの、埋葬施設である

横穴式石室からは須恵器をはじめ、馬具や飾り大刀等の副葬品が出土し、六世紀後半に埋葬が行われたことが判明しました。なお、石室の形態は、六世紀後半の志太地域において有力者が採用したタイプです。

衣原古窯では、須恵器の焼成窯一基と木炭窯二基を調査しています。志太地域では古墳から多くの須恵器が出土しています。その中には地元で生産されたものが含まれると指摘されていましたが、これまで古墳時代後期にさかのぼる須恵器窯は未発見でした。衣原古窯の発見により、その存在が証明できたと言えます。ここで生産された須恵器は六世紀後半のもので、駿河において、いち早く須恵器生産を開始した地の一つが、この葉梨であったとも言えます。また、木炭窯についても、志太地域では初めての発見です。

以上のように、寺家前遺跡は集落跡と水田跡、衣原古墳群は古墳、衣原古窯は生産跡と、それぞれの遺跡の内容は異なります。しかし、三つの遺跡はほぼ同時代のものであり、近接して存在することから、これらの遺跡が何らかの関連性を持っていたことは想像に難くありません。三遺跡の関連性については、今後検証を重ねなければなりません。寺家前遺跡に居住した有力者が、須恵器生産に関与し、衣原古墳群に葬られたと考えることもできます。この地を治めていた有力者は、当時の最先端技術の一つといえる須恵器の制作を導入した点や、馬具・飾り大刀を所有する点などから他の地域との交流があったこともうかがえます。

このように、関連性が想定されるほぼ同時期の遺跡が近似して存在する例は藤枝市では初めての発見です。本格的な資料整理はこれからですが、より詳細な検討を加える過程で更なる発見があるでしょう。

(考古担当調査委員 菊池 吉修)

／財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

広幡の歴史を語るいろはかるた



市史編さん調査協力員(広幡地区)

松本八衛

東海道藤枝宿と岡部宿の間の街道沿いに南北に広がる田園地域が私等が育った旧広幡村で、水田四〇〇余町歩、茶園、柑橘園百余町歩を七〇〇戸で耕作していた純農村であった。いつ頃から人が住み耕作をしていたかは定かでないが八幡山、潮山の山麓に幾多の古墳や、一五〇町歩に及ぶ条里制遺跡を見るにつけ、相当に古くから生活がなされていたものと考えられるが、藤枝や岡部のように宿場町として繁栄した地域に比べるべくもない小さい歴史であるが、私等の祖先が生きた証を尋ねるもまた面白からうと、昭和五十四年村内有志十数名が「広幡の歴史を探究する会」を誕生させました。月一回程度公民館に集まって論談しながら題材をみつけ、これを深めたり講師を呼んだり、あるいは視察旅行をしたりして、いつしか三〇年に近い年月が流れました。歴史を探究するということは勿論古い事象を明らかにするわけですが、これを伝承するという

意義も大切なことで、折にふれて小誌にまとめておきたいと、昭和六十一年に『ふるさと広幡』を発刊、その後も何度か手がけましたが、その中で「ふるさと歴史いろはかるた」は比較的面白くできたので、皆様にお知らせしようかと思えます。試行錯誤六か月、どうやらまとまったのが平成二年でしたので、今の眼で見ると間違いもあり足りないところもありますが、当時のままをお笑い種に提供いたします。若干の説明がつかないと若い人や他所の方々にはわからないかもしれないがスペースの都合上、お許し願いたいと存じます。

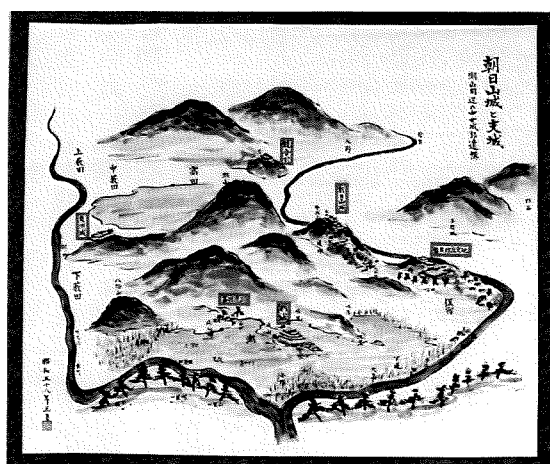
広幡歴史いろはかるた

い 何時までも先祖の偉業伝えよう
ろ 論語読み寺子屋学校顔に墨
は 八左衛門提灯で測量川を掘る
に 西の地でお城の護り神明宮
ほ 法の川水害防ぎ逆水門
と 徳川の戦利みちびく勝退薙
ち 忠魂の二百余柱眠る塔

り 陸地にも舟付場あと孝養院
ぬ 額けば白髭さんは近江から
る 累代を重ねし須賀の大桶
を 往還の名残とゞめる松並木
わ 輪の跡に昔を偲ぶ三輪小路
か 寛永の川替えで移る諏訪神社
よ 横内に岩村藩の陣屋跡
た 橋の社当間の上と下
れ 靈験もあらたか^{あふみ}鑑の観音さま
そ その昔、下に下にとお成街道
つ 土団子捧げて祈る川地藏
ね 年貢米納めた郷蔵村毎に
な 流されし街道守る伝八翁
ら 来世の幸せ願ふ耕春院
む 昔海、潮池より貝化石
う 潮なる里に湧き出づ薬の湯
あ 井口あり、白岩の水百余町
の 野の道にひっそりと立つ庚申塚
お 岡部氏の拓きし郷に朝日城
く 苦勞せし条里の跡や百五十町
や 八幡より西田中領勝示石
ま ままならぬ浮世の常や思案橋
け 軽便の汽笛なつかし岡部線
ふ 文教の礎今に旧校地

こ 古代人八幡遺蹟に今偲ぶ
え 江戸を発ち四十八番一里塚
て 手揉茶の名人内山重太郎
あ 青山の八幡さんは五里八幡
さ 産業の発展のもと報徳社
き 木戸口に宿場の名残り店のれん
ゆ 湯のけむり潮富士見て舟あそび
め 名医あり西の藁科東の鳴谷
み 弥勒さん神仏分離で会下の島
し 城山の遺構に偲ぶ潮城
ゑ 越後島入れて広幡九ヶ村
ひ 広幡の役場の跡に公民館
も 最早なし鑑ヶ渚の水の蒼
せ 乙旗を三笠に掲げし友右エ門
す 駿河路の九番札所の観音寺

(広幡の歴史を探究する会)



▲ 朝日山城周辺の図

新刊のご案内

藤枝市史 資料編1 考古

(販売予定価格 四、〇〇〇円)



▲ 釣瓶落2号墳出土の須恵器

藤枝市内の全一五六遺跡を、一二八項目にまとめ時代ごとに解説します。

【第一章 旧石器・縄文時代】

市内唯一の旧石器時代遺跡かつ縄文時代の重要遺跡である天ヶ谷遺跡の出土遺物、ほか初公開資料多数の縄文時代二〇遺跡を紹介。

【第二章 弥生時代】

土器編年の指標として著名な上敷田モミダ遺跡・上敷田川の丁遺跡・清水遺跡など一八遺跡を紹介。

【第三章 古墳時代】

代表的な前期・中期古墳である五鬼免古墳群・若王子古墳群・五州岳古墳、市域に広がる後期の大古墳群として著名な白砂谷古墳群・瀬戸古墳群、初公開資料をふくむ南新屋古

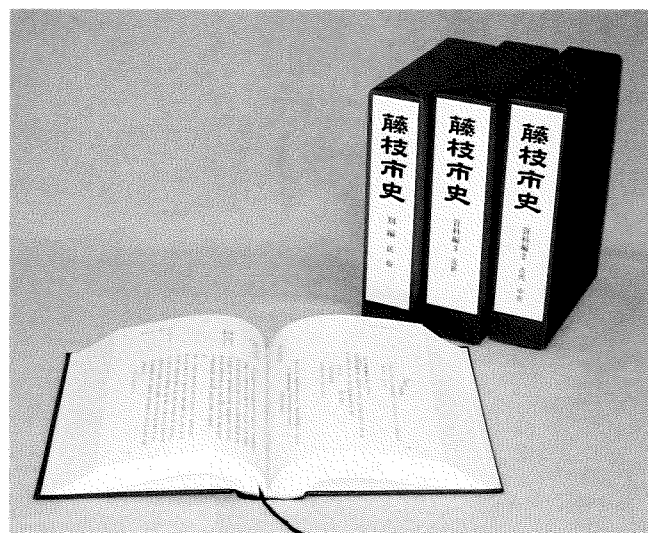
墳群・八幡古墳群・正勝山古墳群・風呂ヶ谷古墳群。水守遺跡・郡遺跡の集落遺跡や近年調査された衣原窯跡群など四八遺跡を紹介。

【第四章 奈良・平安時代】

郡衙の遺跡として知られる御子ヶ谷遺跡・郡遺跡。郡衙関連遺跡の水守遺跡や著名な助宗窯跡群など古代の二二遺跡を紹介。

【第五章 鎌倉時代以降】

特徴的な同心円形の縄張りで全国に知られる田中城跡の出土土器の詳細。鬼岩寺石塔群をはじめ市域の石塔群の主要な調査成果など、中世・近世の二〇遺跡を紹介。



既刊 藤枝市史

○ 資料編2 古代・中世 三、五〇〇円

○ 資料編3 近世一 三、五〇〇円

○ 別編 民俗 四、〇〇〇円

藤枝市郷土博物館で

販売しています

お問合せ 藤枝市郷土博物館

(藤枝市若王子五〇〇)

TEL 054-645-1100

鬼岩寺中世墓に葬られた人たち

名古屋大学博物館 新 美 倫 子

鬼岩寺は高野山真言宗の古刹で、中世の石塔が四〇〇基あまり集め置かれていることも知られています。藤枝市史の編さんにあたって、この鬼岩寺の中世墓地の発掘調査が行われ、三箇所の墓から焼けた人骨が出土しました。二箇所の墓では、資料はそれぞれ壺（古瀬戸四耳壺）と水差し（常滑水注）の蔵骨器に入っており、もう一箇所の墓では五輪塔の下の中から少量の資料がまとまって出土しました。

調査を行った静岡大学の篠原和大氏によれば、人骨が埋葬された時期は壺と水差しの蔵骨器では一三世紀後半頃で、五輪塔では一五〜一六世紀とのことでした。

さて、これらの墓に葬られたのはどんな人だったのかを、出土した骨から考えてみましょう。よく焼けた骨は灰白色になり、熱のためにゆがんで変形し、細かく割れて小さな破片になっています。それでもこれらの資料が人骨とわかるのは、表面の組織に人骨の特徴（拡大鏡で見ると小さな孔がたくさんあいている）が見られるからです。そして、関節部分が残っている資料であれば、それが身体のどの部位の骨であるかもわかります。また、同一の墓から出土した資料に同じ部位（例えば、右下顎骨の関節の部分）が二つ含まれていれば、そこには「少なくとも」二人分の骨が含まれていることもわかります。

（一）壺（古瀬戸四耳壺）の中の資料

蔵骨器の中には三〇一五点の焼けた人骨が入っており、その内訳は頭蓋骨九五点、下顎

骨四点、歯六点、四肢骨八四点、肋骨二点、部位不明の破片が二八二点でした。右側の側頭骨頬骨突起（耳の孔の前の部分）が二点含まれていることから、この資料には少なくとも二個体が含まれています。下顎骨では左と右の資料が出土し、左下顎骨では歯は残っていませんが、歯槽や骨体の状況から見て成人の資料と思われる。右下顎骨では第1後臼歯（六歳臼歯）は萌出を終えているが、第2後臼歯（一二歳臼歯）はまだ萌出しておらず、六〜一二歳の個体の資料と考えられます。つまり、本資料には六〜一二歳の個体と成人の少なくとも二個体が含まれており、一つの壺に複数の人の骨が入れられていたのは予想外でした。両方とも男女の区別は不明です。

蔵骨器中での資料の検出位置を見ると、六〜一二歳の資料も成人の資料も共に上層部からも下層部からも検出されており、両者は壺に混在して入れられています。また、上層部と中層部からそれぞれ検出された成人の左下顎骨破片が接合したことから、骨はある程度碎いて混ぜられて蔵骨器に入れられたようです。

（二）水差し（常滑水注）の中の資料

蔵骨器の中から六九三点の焼けた人骨が検出され、その内訳は頭蓋骨一八点、歯一七点、環椎一点、四肢骨二〇点、椎骨五点、肋骨五点、部位不明の破片六二七点でした。頭蓋骨破片には厚さがきわめて薄い乳児の資料が多く含まれていました。歯には下顎第三後臼歯（親知らず）左右各一点が含まれることと、乳児

の頭蓋骨破片以外は大きさや骨質から見てすべて成人の資料と思われることから、本資料には少なくとも乳児と成人の二個体が含まれています。二個体とも男女の区別は不明です。

（三）五輪塔の下から出土した資料

七八点の焼けた人骨が土中から検出され、その内訳は頭蓋骨五点、下顎骨一点、歯八点、四肢骨一点、部位不明破片六三点でした。歯には左右不明の下顎第三後臼歯（親知らず）一点が含まれ、他の資料も大きさや骨質から見てすべて成人のものと思われるので、本資料には少なくとも成人一個体が含まれていますが、男女の区別は不明です。



▲ 蔵骨器出土状況